

あぐりめ〜る新川

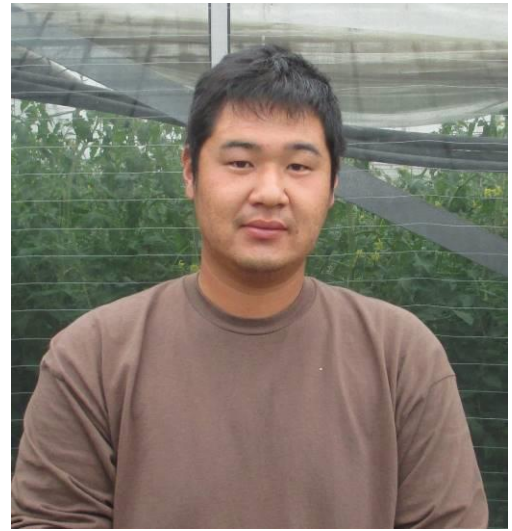
第71号(平成28年6月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生3200
(TEL) 担い手支援課 (0765) 52-0268
(0765) 52-5192
農業普及課 (0765) 52-0094
(0765) 52-0945
(FAX) (0765) 52-3115

新川 農業の未来を担う人 ~第17回~ 松本 謙介 氏 (魚津市仏田)

~土づくりにこだわったトマト栽培~

松本謙介さんは、魚津市仏田で、両親・姉とともに、ガラスハウス6棟で春~夏はトマト、冬はコマツナを中心に、水稲との複合経営に取り組んでいます。篤農家である父から高い技術を直接、実践的に学ぶことが自分の力をつけるのに一番近道と判断し、高校卒業後、すぐに実家で就農されました。施設栽培では、土づくりが非常に重要なことから、自家製の完熟堆肥を作り、毎年施用するなど、化学肥料に頼らない栽培を心がけています。

エコファーマーの認定も受け、生物農薬の利用や耐病性台木の利用などにより、防除回数は2~3回/作(県慣行の半分以下)と非常に少なくなっています。こだわりのトマトは市場関係者の目にとまり、市場とJAで専用の出荷袋やコンテナを作り、PR販売や流通コストの削減にも取り組んでいます。現在、“しんきろうトマト”として県内大手量販店へ出荷し、高い評価を得ています。



~一家の大黒柱として、地域のリーダーとして~

平成27年に父から経営継承し、管理作業のスケジュールや追肥量の決定など栽培管理・経営方針の決定を謙介さんが責任をもって担当されています。主力となるトマト栽培では、今後10a程度の規模拡大も検討されています。

また、KUUファーマーズ(黒部・魚津市の青年農業者の組織)の会長等も歴任され、現在も副会長として活躍されています。さらに、地区の水稲育苗や防除作業を中心に担っており、地域から厚い信頼を得ており、今後ますますの活躍が期待されます。



P. 2、3… 水稲の水管理と病害虫対策(カメムシ)

P. 4… 平成28年度 園芸作物による経営の複合化研修会のご案内

P. 5… 次世代施設園芸の全国展開

P. 6… GAPの取り組み ~農薬の適正使用~

P. 7… 野生動物による農作物等の被害と対策について ~その5~

.....

P. 8… 耳より情報:『とやま農業未来カレッジ』第3期生の募集に向けて、お知らせ:オール富山で6次産業化研修会開催!、「メール情報」受信者を募集します!

水稻の水管理と病害虫対策（カメムシ）

1. 異常高温に備えるために ～根を大きく育てる水管理～

管内の稲作は、夏の登熟期間の気象が異常高温となった場合に、白未熟粒が多発し、品質が大きく低下してしまうのが特徴です。

異常高温に打ち勝つためには、根づくりをしっかり行い、活力の高い稲体を作り、登熟後半まで活力を維持することがポイントとなります。出穂期までは根の伸長をしっかり促し、出穂期以降は、根は伸びないため、活力を長く保つよう水管理を徹底しましょう。

① 中干し前に、まず「溝掘り」！！

溝掘りにより、凸凹があるほ場での水のかげ引きが速やかになります。溝掘りは中干し前に必ず行いましょう。



(左)中干し有(右)中干し無

②「中干し」は、田植後1か月頃を目安に開始！～根をしっかり深く伸ばす～

中干しは、有害ガスを除去し、根の健全化を図り、直下根が深く伸び、根の量が増加します。足跡の深さが3cm程度になるまで、ほ場を固くしましょう。

まだ中干しを行っていないほ場は、田植後1か月頃を目安に、早急の中干しを開始しましょう。

③ 中干し後は、幼穂形成期まで「間断かん水」～うわ根の発生～

幼穂形成期頃までは「間断かん水」を行い、根に適度な水分と酸素を補給します。この水管理により、うわ根が成長します。

④ 幼穂形成期から出穂までは「飽水管理」～水分と酸素で活力維持～

「飽水管理」は、足跡に水が残る程度の状態になったら入水して、土が水分不足にならないように管理することです。

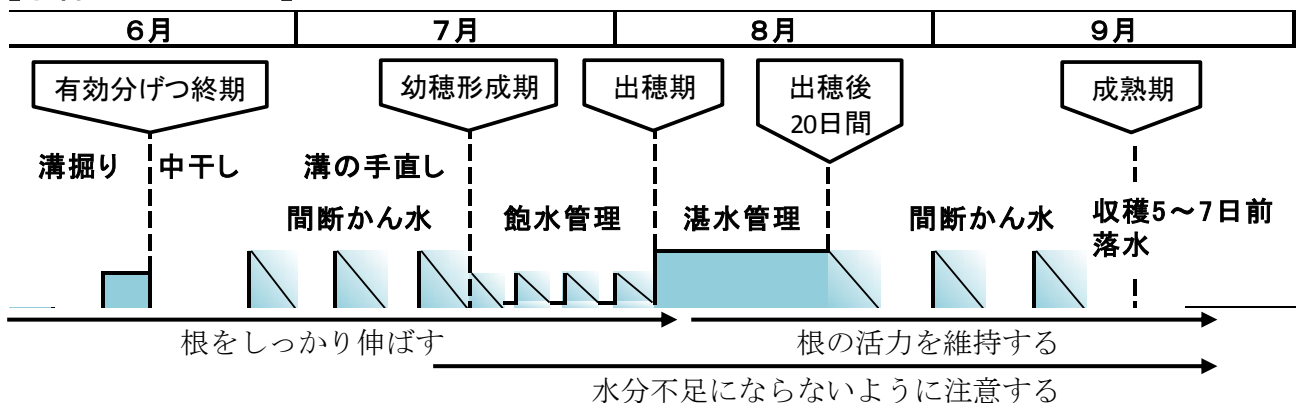
幼穂形成期～出穂期にかけて飽水管理を行い、水分不足にならないようにしましょう。

⑤ 出穂後20日間は「湛水管理」

出穂後の20日間は登熟盛期となることから、十分に水分を与え、登熟を促しましょう。

また、この期間中は、カドミウムの吸収を抑制するため、田面が出ない程度の湛水状態が基本ですが、時々、酸素補給を兼ねて冷たい水に入れ替えを行ってください。

【水管理のイメージ】



2. 斑点米の発生防止対策

平成27年産米は、カメムシ類の生息数が多かったことに加え、特に早生品種で割粃が多く発生したことにより、早生品種で斑点米被害が発生しました。そこで、斑点米の発生防止対策として、①割粃の発生軽減、②カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくり、③防除効果の高い薬剤の選定と適確な防除の徹底、に着実に取り組みましょう。

① 割粃の発生軽減

ケイ酸成分の補給により割粃の発生が減少することが確認されています。中間追肥でケイ酸肥料を積極的に施用しましょう。

また、県では気象情報を活用し、割粃の多発生が予測される場合には、割粃の発生予測情報を発信し追加防除などの注意喚起を行う予定です。

② カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくり

今年は、越冬後のカメムシ類の発生が多くなっています。

畦畔や雑草地でのカメムシ類の増殖を抑えるため、イネ科雑草の穂が出ないように草刈りを行いましょう。麦あとほ場についても、大豆、園芸作物、緑肥等の栽培により、雑草の繁茂を防ぎましょう。

また、アカスジカスミカメは、水田内のノビエ、ホタルイの穂を好み産卵・増殖することから、水田内雑草の発生には注意し、適切な除草対策を行いましょう。

種類	カスミカメムシ類		トゲシラホシカメムシ
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	アカスジカスミカメ	
形態等	<ul style="list-style-type: none"> 体長5-6mm 体は細長く、淡緑色 触角が赤い 	<ul style="list-style-type: none"> 体長4.6-6mm 体は黄緑色 前翅会合部に橙赤色の太い縦条 触角と腿節が赤い 	<ul style="list-style-type: none"> 体長4.5-7mm 体色は淡い灰褐色 両側の黄白色の紋 前胸背の両側は突出し、先端が鋭い 
寄主植物	イネ科植物	イネ科植物 カヤツリグサ科植物(ホタルイなど)	イネ科植物 マメ科植物 など

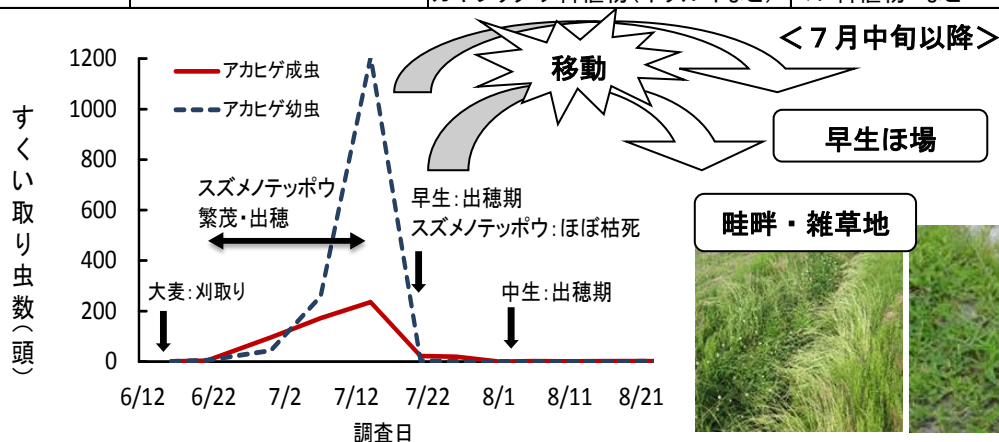


図1 麦あとほ場におけるカメムシ発生状況



図2 カメムシ類が好む主なイネ科雑草
(左:ギナガヤ 右:コヒシバ)

③ 防除効果の高い薬剤の選定と適確な防除

防除暦では、カメムシ類に対して防除効果の高い薬剤が選定されています。適期に防除を行い、斑点米被害の発生を防止しましょう。

平成 28 年度 園芸作物による経営の複合化研修会のご案内

近年の米を巡る情勢が変化する中、県内では1億円産地づくり品目を中心に、野菜・果樹・花き栽培を導入する経営体が増えてきています。特に、米に特化した本県農業の構造改革が求められる中、主穀作経営体の複合化の推進、園芸産地の生産基盤の強化が必要となっています。そこで、県や全農等では下記の「園芸作物による経営複合化研修会」を開催する予定ですのでご案内します。

1. 野菜関係

ニンニク収穫機実演会	6/6
加工用キャベツ栽培研修会	6/7
加工用キャベツ定植作業研修会	7月中旬
大規模経営推進研修会 (キャベツ、ニンジン等)	6月下旬
夏まきニンジン栽培研修会	7月上旬
寒締めほうれんそう等栽培研修会	8月下旬
白ねぎ導入推進研修会	11月中旬
カンカン野菜現地研修会	2月上旬



カンカン野菜研修：サツマイモ・イチゴ（氷見）

2. 果樹関係

もも栽培技術向上研修	7月、2月中旬
りんご収量・品質向上プロジェクト 合同巡回	6/17、10月中 旬、3月中旬
小粒イチジク栽培技術向上研修会	5/27、10月下旬
ラズベリー栽培技術向上研修会	6/3、11月下旬
水稲育苗ハウス利用の果樹栽培研修会(ラズベリー、小粒イチジク、ブドウのボックス栽培)	6/28



ラズベリー栽培技術向上研修会（入善）

3. 花き関係

切花生産拡大推進研修会	7月中旬
切花栽培技術高度化研修会	10月中旬

4. その他行事

園芸生産拡大大会	11月中旬
次世代型施設園芸セミナー	11月中旬



営農組合における切花栽培（砺波）

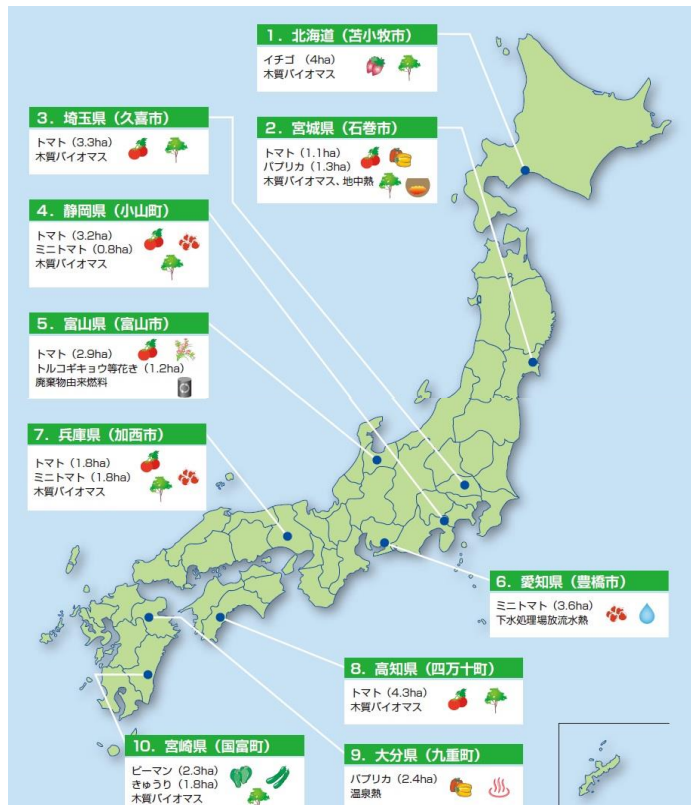
今後予定されている研修会の参加を希望される場合は、園芸振興班までお問合せ下さい。開催日時場所等の詳細が決まり次第、ご連絡させていただきます。

次世代施設園芸の全国展開

次世代施設園芸とは、農林水産省が推進している施策で、攻めの農林水産業の大きな柱として施設を大規模に集積（下限3ha）し、生産から調整・出荷まで一気通貫して行う施設園芸です。

木質バイオマス等の地域エネルギーや再生可能エネルギーを利用した発電所等から供給される熱や電気などを活用し、化石燃料依存からの脱却を図るとともに、高度な環境制御により、周年・計画生産を実現するという、日本の施設園芸の新たなスタイルとして期待されています。

現在、①低コスト耐候性ハウス、②高度環境制御栽培施設、③省エネルギーモデル温室などの園芸施設や、種苗生産施設、集出荷貯蔵施設、農産物処理加工施設などが、全国10か所に整備され、コスト削減や地域雇用を創出するなど地域の活性化が期待されています。



富山県の次世代施設（富山市婦中地区）

(1) 事業主体：富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点整備協議会

(2) 栽培品目：フルーツトマト 2.8ha、花き 1.2ha

区分	事業実施概要
拠点整備	①温室、②廃棄物由来燃料を利活用した発電付きボイラーからの熱電供給システム、③種苗生産施設、④集出荷施設を整備
技術実証	①ICT等を活用した高度環境制御システムの導入実証 ②データ化によるナレッジの共有のためのウェアラブル端末等を活用実証
その他取組	①新たな販路の開拓（輸出含む） ②栽培技術研修（地域雇用創出、人材育成） ③消費者及び実需者ニーズの把握



廃棄物処理施設から発生する廃熱を蓄熱コンテナで温室に供給



水、肥料、農薬を最小限に抑えることにより高糖度のトマトを栽培



トルコギキョウ、ランタンキュラス、カンパニユラを栽培

（掲載：農林水産省 次世代型施設園芸 事業実施地区概要より抜粋）

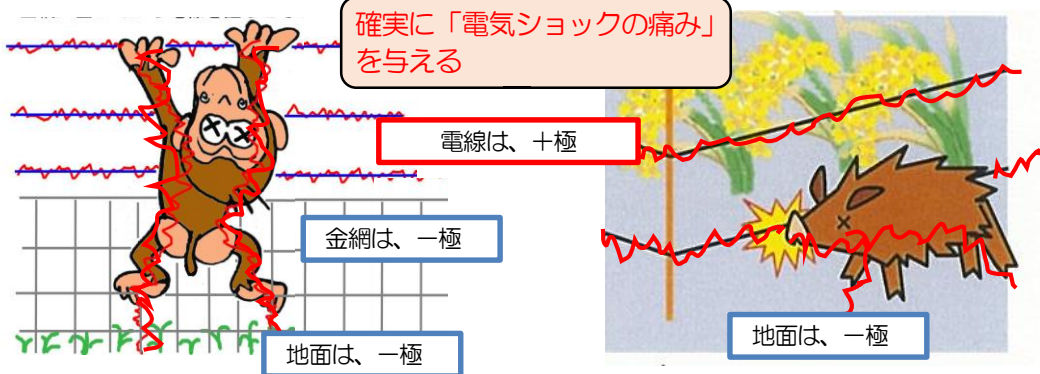
※次世代施設園芸推進セミナーの開催（11/中旬）

関係機関や生産者等を対象に、現地施設視察や高度環境制御栽培などの成果に関するセミナーが開催される予定です。

野生動物による農作物等の被害と対策について ~その5~

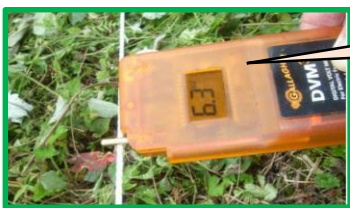
「電気さく」は、農作物を野生鳥獣から守る効果が高く、新川管内においても「電気さく」の整備が進んでいることから、野生鳥獣による農作物被害を減少させることができています。しかし「電気さく」がどのように野生動物に対して効果を発揮しているのか理解されないまま設置していたり、設置後の管理が悪かったりして、「**設置したのに被害防止効果がでなかった**」となることもあります。せっかく設置しているのですから、しっかり効果の出せるようにしましょう。

「電気さく」の仕組み



電線には電気（+極）が流れています。電線に触れると電気が動物の体の中を通過し足から地面（-極）に流れます。電気が体を通ると強い電気ショックを動物に与えます。この電気ショックによる痛みにより動物を田畑への侵入を防ぎます。そして、「さく」は危険と動物に学習させ、近寄らなくさせます。
(高電圧ですが、低電流なので誤って人がふれても生命の危険はありません)

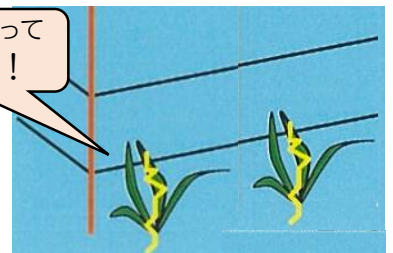
電気さくを設置した。これで安心してはいけません！ 維持管理をしなくては効果がなくなります。 せっかく設置してあるのに効果がでません！



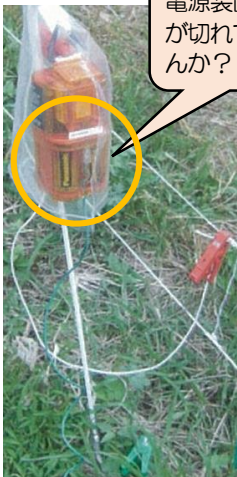
電圧の測定中
この電圧は、6300ボルト

**電気さく設置後は、電圧の確認が必要！
野生動物に電気ショックを確実に与えるには最低でも4000ボルト必要です**

雑草が電線に触って
漏電、電圧低下！



**漏電により電圧低下が発生！
電気さくの効果がなくなります！**



電源装置の電池
が切れていま
せんか？

電圧は下がって
いませんか！

- ・漏電してない？
- ・バッテリー切れてない？



バッテリーが切れていま
せんか？



稲が電線に触って
漏電、電圧低下！

その1 『とやま農業未来カレッジ』第3期生の募集に向けて

- とやま農業未来カレッジは、本県農業の若き担い手を育成するため、平成27年1月に県が開校した研修機関です。本年3月には第1期生16名が卒業して就農しており、現在第2期生14名が研修しています。
- 平成29年4月入学の第3期生は、本年の7～11月に募集予定で、対象者は本県で就農を希望し、1年間通学が可能な卒業時点で45歳未満の方です。
- 研修内容は、農業の基礎知識や栽培技術の講義に加え県内の先進的な農家での実習、農業機械研修センターでの機械演習、農家派遣研修などの校外カリキュラムを含む内容で構成されています。
- 詳細は、経営支援班、又は、とやま農業未来カレッジへお問い合わせ下さい。(経営支援班 52-0268)

【とやま農業未来カレッジ公開講座】

- 1 月日 平成28年7月26日(火)
 - 2 時間 14:00～16:00
 - 3 場所 富山県民会館401号室
 - 4 内容 「流通業界の現状と農業生産者に期待すること(仮題)」
 - 5 講師 中央大学大学院
客員教授 大塚 明 氏
- (参加のご希望や照会は経営支援班まで)

「とやま農業未来カレッジ」

〒939-8153 富山県富山市吉岡108番地
TEL:076-461-3180
FAX:076-461-3185
Mail:nougyou-college@taff.or.jp
URL: <http://taff.or.jp/nou/college/>

【お知らせ】その2

.....
オール富山で6次産業化研修会開催!

- 今年度から、県一本で6次産業化の基礎的な研修を開催します。
- 県全体から、6次産業化を目指す経営体や地域で6次産業化をけん引していきたい方々を募集します。
- 研修内容は、講義に加え、インターンシップ(実践法人等での実習)や相談会などを予定しています。
- 1回目については、6月27日(月)の午後に富山市内で、開講式と6次産業化へのデータ活用をテーマに、開催されます。
- 受講のご希望やご不明点は末尾までお問い合わせ下さい。
(経営支援班 52-0268)

【お知らせ】その3

「メール情報」受信者を募集します♪

- 当センターでは、①気象や台風や大雪などの災害等の情報、②水稻の生育調査結果、③農作物管理などを、携帯電話やパソコンのメール、FAXで配信するサービスを行っています。
 - 情報は、300字程度の文字情報に加え、水稻の生育グラフをPDFファイルで添付することも可能です。
 - メール情報の受信を希望される方は、下記アドレスまで「情報メール配信希望」とお書き添えの上、ご自身のお名前と、メールアドレスまたはFAX番号をお知らせください。
右記QRコードを読み込み、ご送信いただいても登録されます。
- QRコード®は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。
メールアドレス: niikawakurobe@esp.pref.toyama.lg.jp
FAX : (0765)52-3115

